

## 第 2 委 員 会

### 【質問 1 「英語の力を伸ばすための学校での取り組みについて」】

私たちは、「英語の力を伸ばすために学校でどんなことができるか」について話し合いました。たくさん意見が出ましたが、みんなの意見を二つにまとめましたので発表いたします。

一つ目は、「外国の英語の先生といつでも話ができるようにする。」ということです。現在、毎月2回くらい来てもらっていますが、さらに、来てもらえるようにならないかと考えます。そのための方法としては、大阪市のホームページや、ポスターを作成して外国の英語の先生を募集するのはどうかという意見になりました。

二つ目は、「英語でのスピーチコンテストを実施する。」ということです。その内容は授業時にスピーチコンテストを行い、学年でいちばんすばらしいスピーチを選びます。選ばれた人たちは学校の朝会や集会で発表し、学校で最もすばらしいスピーチを決めます。その後は区、市などのコンテストを行っていくというものです。



低学年と高学年とでは差があるので低学年の部、高学年の部として分けてはどうかという意見もでました。スピーチコンテストを実施するとなると学校の力だけでは不可能です。大阪市長の呼びかけが必要だと思います。ぜひ、力を貸してください。

私たちの考えや思いをお聞きになって何か思われたことはございますか。ご意見がございましたら、よろしくお願いします。

### 【市長答弁要旨】

- 今、大阪市では外国語を話す外国人の英語の指導員を、C-NETという仕組みで採用し、中学校・小学校に派遣するという事業を進めている。C-NETの先生は、現在、総数で124名おり、小学校3・4年生では5週間に1回程度、5・6年生では月に2・3回程度、授業を行っている。
- 授業の時間だけでなく、休み時間やお昼休みの時間にも積極的に皆さんからC-NETの先生に話しかけてもらいたいと思う。

- 英語で大事なことは、うまくしゃべるとか、しゃべれないから恥ずかしいとかではなく、身ぶり手ぶりでもいいから、とにかくトライしてみることが重要だと思う。私も今、万博誘致活動のため、海外でいろんな活動をしている。大事なのは気持ちだと思っている。積極的に話しかけようという気持ち、単語でもいいから何か話しかけようとする態度、それが一番英語力を向上させていくのではないかなと思う。
- 英語の小学生スピーチコンテストは素晴らしいアイデアだ。まずはトライすることが大事だと思っている。併せて、大阪市では小学校1年生から英語教育に力を入れ、英語に触れる機会を作っていることから、英語に熱心に取り組んでいる小学生も多いと思う。そのことから、小学生のスピーチコンテストを大阪市内でも実施する。
- 子ども市会の皆さんの発案でやることになるので、皆さんは必ずこのスピーチコンテストに応募してほしい。英語でコミュニケーションを取ろうという気持ちを持つことは、これからさらに重要になっていく。皆さんが、将来大人になった時に、国際社会においてしっかりとリーダーシップをもって、引っ張ってもらいたいと思う。それぞれのレベルがあるが、まずは英語にも、スピーチコンテストにもトライしてほしい。

## 【質問2「本が好きになる図書館の取り組みについて」】



私たちは「本が好きになる図書館の取り組み」について考えました。実際に大阪市立中央図書館を見学した経験を生かして、アイデアを出し合いました。

一つ目は「自動車文庫を増やす。」です。実地調査で、高齢者や小さな子供のいる方は、遠方の図書館まで行きづらいため、自動車文庫が大変人気であると知りました。自動車文庫の出動機会が増えると、自動車文庫を通して本が好きになる人も増えると思います。

そして、自動車文庫を知らない人が多いので、もっと大阪市のホームページや広報誌等に載せてPRすればよいなどの意見が出ました。

二つ目は「図書館施設の充実」です。先日図書館見学のときに自転車が歩道などに止められていることに気づきました。まず、みんなが気持ちよく利用できるようなもっと自転車置き場を整備するべきだ



と思います。次に電子図書を大阪市全ての図書館に置き、みんなが使えるようにすべきだと考えます。電子図書をきっかけに本に興味を持つ人が増えるかもしれません。最後に、小さい子どもを対象にした読み聞かせコーナーがあることは先日の見学で知りましたが、高学年の子どもたちを対象にした小説や物語を読み聞かせてくれるコーナーも設置してほしいです。

私たちの提案について、市長の考えをお聞かせ下さい。

### 【市長答弁要旨】

- 図書館になかなか足を運ばない人のために、自動車文庫を増やすという視点は非常に重要である。これまでいろいろな要望に応じて、今では2台の自動車文庫により市内105か所を巡回している。
- 来年の秋になるが、中之島に子どもの未来図書館を作る。子ども向けに特化した図書館で、子どもが自分の将来、未来を感じられる図書館を世界的な建築家の先生と一緒に作っている。館長には京大のiPS細胞でノーベル賞を受賞した山中教授になってもらう。図書に触れてもらえるような取り組みを進めている。
- 中央図書館については、きちんとマナーを守って自転車を止めてもらえれば、今の駐輪場の300台で収まるという計算になっている。しかし、なかなかマナーを守ってもらえていないというのも事実だ。貼り紙をしたりして、利用者のマナー向上をさらに進めていきたい。
- 電子図書については今年7月から、子ども向けに読上げ機能が付いた英語の絵本や児童書等の電子図書の配信を試行実施している。
- また、高学年を対象とした読み聞かせの行事というのは、これまで学校へ出向いですることはあったが、図書館では実施していなかった。今回、ぜひそういうことをやってもらいたいという強い思いがあると聞いたので、それぞれの図書館においても高学年向けの読み聞かせをやっていく。皆さんの提案なのでぜひ利用し、参加してほしい。
- 放課後いきいき事業についても、図書館を活用できるという仕組みに変えていっているところだ。皆さんの学校の図書館、地域の図書館、中央図書館、そして車の図書館、様々な図書館を通して本に触れてもらいたい。

